

柏原市子どもの学習・生活支援事業 「まなび家(や)ほのぼの」

学科・専攻： 関西福祉科学大学
社会福祉学科

担当教員： 一村 小百合、南 多恵子

連携先： 柏原市健康福祉部生活福祉課
柏原市社会福祉協議会

プログラム内容

- ・週2回の活動(毎週火・水曜日 午後6時45分より午後9時15分までの2時間30分)で、そのうち指導時間は午後7時から午後9時までの2時間。
- ・生活困窮世帯を中心に学力面や学習環境面において課題を抱える中学生に対し、高校進学に向けた学習の機会を提供することにより、生活困窮世帯からの脱却と自立促進を目的としている。具体的には、高校進学に向けて、社会福祉学科の学生が学習支援補助員として、中学生の学力向上、学習習慣の定着を目指した支援を行っている。また、地域における居場所となるようコミュニケーションを図り、交流などのプログラムも行っている。
- ・令和3年度から火曜日はリモート開催で行っており、「ほのぼのこくぶ」の生徒だけではなく、柏原市が実施しているもう一か所の「ほのぼのかたしも」の生徒と合同で、本学学生が支援事業を担当している。

成果・考察

参加している中学生からは「解らなかった所が解るようになった」「解りやすく教えてくれた」「テストの点があがった」「雰囲気良くて学びやすい」「優しい」「楽しい」「教え上手」「受験に合格した」等の感想を頂いている。年度初めや初回の参加時に一人ひとりの状況や目標を確認し、月ごとに学習支援計画を立てて進めていくことや、学習支援員の元中学校教諭からの指導や助言を頂き、個別指導など時間をかけて行えている。保護者からも高評価を頂いている。

学生たちも「教えることの難しさや理解してもらった時の嬉しさなどが経験できた」「一人ひとりに対してもう少し手厚く支えたい」「人との接し方について考える機会となり、コミュニケーションの幅が広がった」「計画を立てて今後の行動を決めていく過程を学ぶことができた」等、教える難しさや課題もあるが、やりがいを感じ、共に学び合う気持ちをもって取り組んでいる。



関西福祉科学大学
社会福祉学科
一村 小百合 准教授

2016年から継続して行っている事業になりますが、学生たちが常に中学生一人ひとりの特長を理解しようと努力し、寄り添った関わりを行っている姿勢は、今後、対人援助職を目指す上で大きな力となることと思っています。中学生たちとの関わりの様子を見ていると、丁寧に関わっており安心して見ていることができています。

また、学生たちが自主的に勉強会を開催したり、提案をしてくれたり、上級生から下級生へと指導を行ったりしており、成長に繋がっていますし頼もしく思っています。



関西福祉科学大学
社会福祉学科 3年生
田中 莉緒 (2024年3月現在)

中学生一人ひとりのペースに合わせた声かけを行ったり、集中力を維持できるようにゲーム形式の内容も取り入れたりしながら、勉強に興味をもってもらえたり、ほのぼのに来るのが楽しいと思ってもらえるように活動しています。

どのような声かけをすれば、興味をもってもらえるのか、どうすれば中学生の持っている力を引き出すことができるのか、日々悩みながら、学生のみならず取り組んでいます。

学生が主体的に考え行動できているので、楽しいですし、いろいろな課題について考える力が身に着いたように思います。